

Dr.クマの“健康のヒント”



クスリと幻覚

私の好きな文学者である澁澤龍彦に「都心ノ病院ニテ幻覚ヲ見タルコト」というエッセーがある。中枢性の鎮痛薬を使った後、天井に地図が見えたり、病室内の物が舞楽面などに見えたりする経験を綴っているのだが、このようなクスリによる幻覚は珍しいことではない。私自身も入院中に似た経験をしたことがあるし、病室にかけてあるハンガーを指して、「新巻鮭を下げるのをやめて下さい」と言う患者さんもいた。中枢、つまり脳に移行するクスリはさまざまな幻覚を含む「せん妄（意識が正常でなく、認知機能が落ちたり幻覚を経験したりすること）」という状態を起こすことがある。パーキンソン病治療薬の幻覚は有名で、そこにいない人や動物が見える、

家族が自分に悪いことをしていると思いつむなどの症状が見られることがある。また、睡眠薬はせん妄を起こすことがあり、夜中に自覚がないまま、つじつまが合わない奇妙な行動を起こすなど、使用上の危険性が指摘されている。また、最近口から飲む中枢性の鎮痛薬も使われるようになり、幻覚などの副作用が心配されている。中枢性に効くクスリ以外でも、H2ブロッカーという胃薬は状態によってはせん妄を起こす。クスリによるせん妄は決して珍しいことではない。自覚できない症状であるため、周囲の人たちの見守りが重要なのである。

(北里大学 医学部 教授 熊谷 雄治)

詰碁 出題 土井 誠 八段

黒先

〔ヒント〕
ダメヅマリをねらいます。

〔あなたの棋力は？〕
5分……………2段
(解答は71頁)

詰将棋 出題 石田 和雄 九段

〔ヒント〕
左翼に逃がさぬ攻め。

〔あなたの棋力は？〕
5分……………初段
10分……………一級
(解答は71頁)